第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

トノサマガエル

Pelophylax nigromaculatus (Hallowell, 1861)

福山欣司（慶応義塾大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：福山欣司，2026．トノサマガエル．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 668-673．

Citation: Fukuyama, K., 2026. *Pelophylax nigromaculatus* (Hallowell, 1861). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 668-673.

無尾目 Anura　アカガエル科 Ranidae

トノサマガエル

***Pelophylax nigromaculatus* (Hallowell, 1861)**

カテゴリー判定結果　準絶滅危惧（NT）　①②				
基準 A:　―	基準 B:　VU 未満	基準 C:　―	基準 D:　―	基準 E:　―

生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。
具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。
①個体数が減少している。
【判断理由】
減少傾向は生息するすべての府県で起こっている。特に宮城県、福島県、神奈川県、新潟県、徳島県、愛媛県、福岡県、長崎県では減少傾向が甚だしく、絶滅危惧種に指定されている。この他、17 府県で準絶滅危惧種に指定されている。

②生息条件が悪化している。
【判断理由】
水田面積の減少と圃場整備や中干しなどによる生息環境の悪化がほぼすべての生息地で見られる。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

　九州、四国、本州の平野部を中心に、広い範囲に分布するが、一部地域を除いて、トウキョウダルマガエルの分布域と重複しない。北海道と対馬には人為的に移入された。水田、河川敷の湿地、池沼などに生息する。非繁殖期には水辺から離れた草地などでも見かけることがある。かつてはどこの水田でも普通に見られたカエルであるが、水田の減少に加え、圃場整備や水稲耕作の近代化にともなう水田の自然環境の悪化により、全国的に減少傾向が続いている。

基礎情報

【形態】

雌雄の体長は、それぞれ 55～80 mm、60～90 mm。メスは白地に暗色の雲上模様、オスは緑色ないし黄色地に暗色の雲上模様の体色をそれぞれ呈する。日本のカエルでは珍しく雌雄で体色が異なる。

【生活史】

生活史を通して水辺から遠く離れることは少ないが、非繁殖期には水辺から離れた草地などで生活することもある。繁殖期は、地域差が大きいが、おおむね 4 月から 6 月。繁殖期には、オスは水面の一定の範囲を縄張りとして守っている。オス同士の縄張り争いは頻繁で、通常、鳴き声による争いであるが、時には直接的な衝突も観察される。メスはオスと抱接した後、2,000 個前後の卵を一塊の卵塊として水中に産卵する。幼生は水田もしくは池沼の浅瀬で、水底の珪藻類や有機物を餌に成長し、6 月下旬から 9 月にかけて変態する。気温が低下してくると、水田内や畦、池の周辺などに穴を掘って冬眠する。変態後、オスは約 2 年、メスは約 3 年で成熟すると考えられる。

【生息環境】

浅い止水とその周辺で生息する。水田がおもな生息地であるが、湿地、池沼や小河川などにも見られる。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】田地・畑地，湿地・湿原・細流，ため池・池沼 【陸域_平地部】田地・畑地，湿地・湿原，農業用水路，小河川，ため池・池沼
国土地域区分：	（2）里地里山・田園地域，（4）河川・湿地地域

【分布域】

本種は、本州から四国、九州にかけての広い範囲に分布するが、トウキョウダルマガエルが分布する関東から仙台平野にかけては分布しない。一方、ナゴヤダルマガエルとは分布域が重複する地域がある。国外では朝鮮半島などに生息している。

現在の生息状況

【分布域の現況】

ここ数年は全国的な分布域に変化は見られないが、水田に依存する個体群が多いため、水田耕作地の減少や水田環境の悪化により、分布域は減少傾向にあると推測される。本来の生息地ではない北海道や対馬に人為的に持ち込まれている。

【生息地の現況】

水田の他、ため池、小河川、水路などに生息する。1 年を通じて水辺環境に依存して生活している。

【個体数の現況】

かつては、水田に多数生息する普通種との認識があったが、近年では、ほぼすべての生

息地において個体数（個体密度）の減少が起こっており、一部では局所絶滅も起こっている。

存続を脅かす要因

本種の生存を脅かすおもな要因として、水田の減少、耕作放棄地の増加、圃場整備に伴う水田の乾燥化、コンクリート製水路による移動の妨害、農薬などによる餌資源の減少、産卵場所となる苗代の減少、中干しによる幼生生育場所の消失などが挙げられる。

要因の区分：	（過去）	圃場整備，土地造成，農薬汚染/化学物質汚染，管理放棄
	（現在）	圃場整備，土地造成，農薬汚染/化学物質汚染，管理放棄，その他（水田の中干し）

特記事項

特になし。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	トノサマガエル	*Pelophylax nigromaculatus*	NT
第４次 2019：	トノサマガエル	*Pelophylax nigromaculatus*	NT
第４次 2018：	トノサマガエル	*Pelophylax nigromaculatus*	NT
第４次 2017：	トノサマガエル	*Pelophylax nigromaculatus*	NT
第４次 2015：	トノサマガエル	*Rana nigromaculata*	NT
第４次：	トノサマガエル	*Rana nigromaculata*	NT
第３次：	—	—	—
第２次：	—	—	—
第１次：	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【青森県】希少野生生物(C ランク),【岩手県】準絶滅危惧,【宮城県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【山形県】準絶滅危惧(NT),【福島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【神奈川県】絶滅危惧Ⅰ類,【新潟県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【富山県】準絶滅危惧(NT),【福井県】要注目,【山梨県】準絶滅危惧(NT),【長野県】準絶滅危惧(NT),【静岡県】準絶滅危惧(NT),【滋賀県】要注目種,【大阪府】NT,【兵庫県】要注目種,【奈良県】希少種,【和歌山県】準絶滅危惧(NT),【岡山県】準絶滅危惧,【広島県】準絶滅危惧(NT),【山口県】準絶滅危惧(NT),【香川県】準絶滅危惧(NT),【愛媛県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【高知県】注目種,【福岡県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【長崎県】絶滅危惧ⅠA 類(CR),【熊本県】準絶滅危惧(NT),【大分県】準絶滅危惧(NT),【宮崎県】準絶滅危惧(NT-g),【鹿児島県】準絶滅危惧

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

指定なし

参考文献

- 愛知県，2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2020―動物編―．愛知県環境局環境政策部自然環境課，名古屋．768pp.
- 青森県，2020．青森県の希少な野生生物－青森県レッドデータブック（2020 年版）－．青森県環境生活部自然保護課，青森．397pp.
- 愛媛県，2024．愛媛県レッドリスト 2024．
- 福井県，2016．改訂版福井県の絶滅のおそれのある野生動植物．福井県安全環境部自然環境課，福井．535pp.
- 福岡県，2014．福岡県の希少野生生物福岡県レッドデータブック 2014－爬虫類／両生類／魚類／昆虫類／貝類／甲殻類その他／クモ形類等－．福岡県環境部自然環境課，福岡．276pp.
- 福島県，2022．ふくしまレッドリスト 2024 年． https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16035b/redlist-kaiteikouhyou.html
- 長谷川雅美・草野保・福山欣司，2000．日本における両生類個体群減少の認識過程．千葉中央博自然誌研究報告，特別号 3：1-7．
- 広島県，2022．広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第 4 版）―レッドデータブックひろしま 2021―．広島県環境県民局自然環境課，広島．761pp.
- 岩手県，2024．レッドリスト(2024 年度)．https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/rdb/1074862/index.html
- 香川県，2021．香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物．香川県環境森林部みどり保全課，高松．503pp.
- 鹿児島県，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物:鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会環境生物部，鹿児島．
- 熊本県，2019．レッドデータブックくまもと 2019-熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物．熊本県環境生活部自然保護課，熊本．631pp.
- 松井正文・前田憲男，2018．日本産カエル大鑑．文一総合出版，東京．271pp.
- 宮城県，2024．宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2024 年版-．https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/red2021.html
- 宮崎県，2022．宮崎県レッドリスト（2020 年度改定）．https://www.pref.miyazaki.lg.jp/shizen/kurashi/shizen/page00193.html
- 長野県，2015．長野県版レッドリスト（動物編）2015．https://www.pref.*nagano*.lg.jp/shizenhogo/kurashi/shizen/hogo/kisyoyasei/redlist/redlist-download.html

- 長崎県，2022．長崎県レッドリスト 2022．https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kurashi-kankyo/shizenkankyo-doshokubutsu/rarespecies/reddata/547398.html
- 新潟県，2016．新潟県第 2 次レッドリスト（新潟県の保護上重要な野生生物の種のリスト）両生類・爬虫類編．新潟県県民生活・環境部 環境企画課，新潟．24pp.
- 日本爬虫両棲類学会（編）， 2021．新日本両生爬虫類図鑑．サンライズ出版，滋賀．232pp.
- 大分県，2022．レッドデータブックおおいた 2022～大分県の絶滅のおそれのある野生生物～．大分県生活環境部自然保護推進室，大分．310pp.
- 岡山県，2025．岡山県版レッドリスト 2025．https://www.pref.okayama.jp/page/965573.html
- 大阪府，2014．大阪府レッドリスト 2014．大阪府環境農林水産部みどり・土地環境室みどり推進課，大阪．48pp.
- 佐賀県，2003．佐賀県レッドリスト Red List 2003．佐賀県環境生活局，佐賀．60pp.
- 滋賀県，2021．滋賀県で大切にすべき野生生物（滋賀県版レッドデータブック）2020 年版．https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kankyoshizen/shizen/322847.html
- 静岡県，2020．静岡県版両生類レッドリスト 2020．https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/shizenkankyo/wild/1017683.html
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久，2006．神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006．神奈川県立生命の星・地球博物館，小田原．442pp.
- 徳島県，2014．徳島県版レッドリスト両生類リスト<改訂：平成 25 年>．https://www.pref.tokushima.lg.jp/kankyo/kankoubutu/red_date.html
- 富山県，2025．富山県版レッドリスト 2025（3.爬虫類・両生類）．https://www.pref.toyama.jp/1709/r7_red_list_toyama2025.html
- 和歌山県，2022．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－［2022 年改訂版］．和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室，和歌山．783pp.
- 山形県，2018．山形県レッドリスト（両生類）．https://www.pref.yamagata.jp/documents/2444/hachu-ryoseiruilist.pdf
- 山口県，2019．レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物．山口県環境生活部自然保護課，山口．986pp.
- 山梨県，2018．2018 山梨県レッドデータブック山梨県の絶滅のおそれのある野生生物．山梨県森林環境部みどり自然課．290pp.
- 渡部恵司・中島直久・小出水規行，2021．水田域の圃場整備におけるカエル類の生息場の保全．応用生態工学， 24: 95-110.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pelophylax nigromaculatus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pelophylax nigromaculatus* is listed as NT under criteria ①②.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat

status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue. ①The number of individuals is decreasing. ②Habitat conditions are deteriorating.	
Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Farmland, Wetland/Marsh/Stream, Reservoir/Pond 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Farmland, Wetland, Agricultural ditch, Small river, Reservoir/Pond
Threat types:	Field preparation, Land development, Pesticide/Toxic chemical pollution, Abandonment of management, Other
Law designation status for conservation	—





執筆者:	福山欣司（慶応義塾大学）
Author:	Kinji Fukuyama

公表年月：2026 年 3 月